

自ら課題を見だし，解決に向けて学びをつなぐ児童の育成
～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた算数科の指導を通して～

志布志市立松山小学校 教諭 中村 裕樹

目 次

1 研究主題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2 主題設定の理由 ・・・・・・・・・・・・・・・・	1
(1) 教育の動向から	
(2) 算数科において育成すべき資質・能力	
(3) 本校の「共通実践7項目」を基にした実態調査から	
3 研究の仮説 ・・・・・・・・・・・・・・・・	2
4 研究の内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・	2
(1) 仮説1の手立て	
(2) 仮説2の手立て	
5 研究の実際 ・・・・・・・・・・・・・・・・	3
(1) 仮説1の検証	
(2) 仮説2の検証	
6 研究のまとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・	8
(1) 本校の「共通実践7項目」を基にした実態調査から	
(2) ロイロノートの振り返りから	
(3) 「単元のゴール」に取り組む姿から	
(4) 研究の成果	
(5) 今後の課題	

〔引用・参考文献〕

・『小学校学習指導要領解説 算数編』	文部科学省	平成29年
・『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)』	文部科学省	令和3年
・『大隅学力向上リーフレット 令和5年度版』	大隅教育事務所	令和5年
・『授業づくり算数・数学科講座～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて～』	鹿児島県総合教育センター	令和5年
・『ICT×思考ツールでつくる「主体的・対話的で深い学び」を促す授業』	新潟大学教育学部附属新潟小学校	平成29年

1 研究主題

自ら課題を見だし、解決に向けて学びをつなぐ児童の育成
～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた算数科の指導を通して～

2 主題設定の理由

(1) 教育の動向から

情報化やグローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、人工知能（AI）の飛躍的な進化を上げ、社会は急速な変化を遂げている。このような予測困難な時代を、子供たちが生き抜くために様々な力を付けさせることが学校の役割であり、教師に求められている。

令和3年1月に中央教育審議会では、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)』を取りまとめ、「各学校においては、教科等の特質に応じ、地域や児童生徒の実情を踏まえながら、授業の中で『個別最適な学び』の成果を『協働的な学び』に生かし、更にその成果を『個別最適な学び』に還元するなど、『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実し、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要である。」(p.19)と記している。

以上のことから、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す必要があると考えた。

(2) 算数科において育成すべき資質・能力

学習指導要領では、算数・数学科において育成を目指す資質・能力を、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されており、「数学的な見方・考え方を働かせながら育成することとされている(図1)。

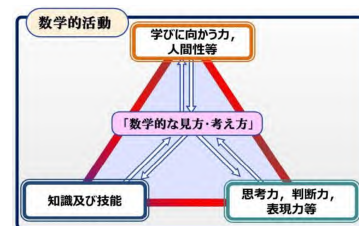


図1 資質・能力の三つの柱

また、算数・数学科においては「日常の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考えたりする」とこと、「算数の学習場面から問題を見だし解決したり、解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考えたりする」ことの二つの問題発見・解決の過程を通して、数学的活動を充実させることが重要である。

このような資質・能力の育成に向け、数学的な見方・考え方を働かせながら、児童が疑問や問いをもち、問題の設定、問題の理解、解決の計画や実行、結果の検討を行い、解決過程や結果の振り返りから新たな疑問や問いの発生へとつなげていくことが必要である。

(3) 本校の「共通実践7項目」を基にした実態調査から

本校では、「分かる授業を目指す『共通実践7項目』(図2)を意識し、授業改善を図っている。その7項目を基に、意識調査を実施した。(調査日：令和5年5月30日、調査人数：12人)

調査内容	とても	まあまあ	あまり	全く
1 学習のはじめに「なぜだろう」と考えている。	6人	4人	1人	1人
2 自分の「めあて」をもって、進んで学習に取り組んでいる。	6人	6人	0人	0人
3 自分の考えや答えを出すときに、進んで一人で考えている。	8人	4人	0人	0人
4 自分の考えや理由を、友達に分かりやすく説明している。	7人	4人	0人	1人
5 友達の考えに質問したり、自分の考えをさらによくしようとしていたりしている。	6人	4人	1人	1人
6 友達から学んだことや解決に役立った考えなどについて振り返っている。	9人	3人	0人	0人
7 学習したことを次の学習に生かそうとしている。	8人	1人	2人	1人

質問1・5・7から、意識が低い児童がいることが分かる。質問1と質問7は、「問いを見いだす」点において共通しており、単元を見通す学習課題（以降「単元のゴール」）を設定したり、学習したことを掲示したりして、児童が自ら課題を見いだし、解決に向けて学びをつなぐ工夫が必要だと考えた。

また、質問5は、自分の考えを「深める」場面である。個別最適な学びで生まれた自分の考えを、異なる考えと比較・検討したり、統合したりする協働的な学びに生かすことが必要だと考えた。

さらに、その成果を個別最適な学びに還元する指導計画を作成し、学習過程の充実を図ることで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることができると考えた。

以上のことを踏まえ、本研究では、自ら課題を見いだし、解決に向けて学びをつなぐ児童の育成を目指し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた算数科の指導を通して研究を進めていく。

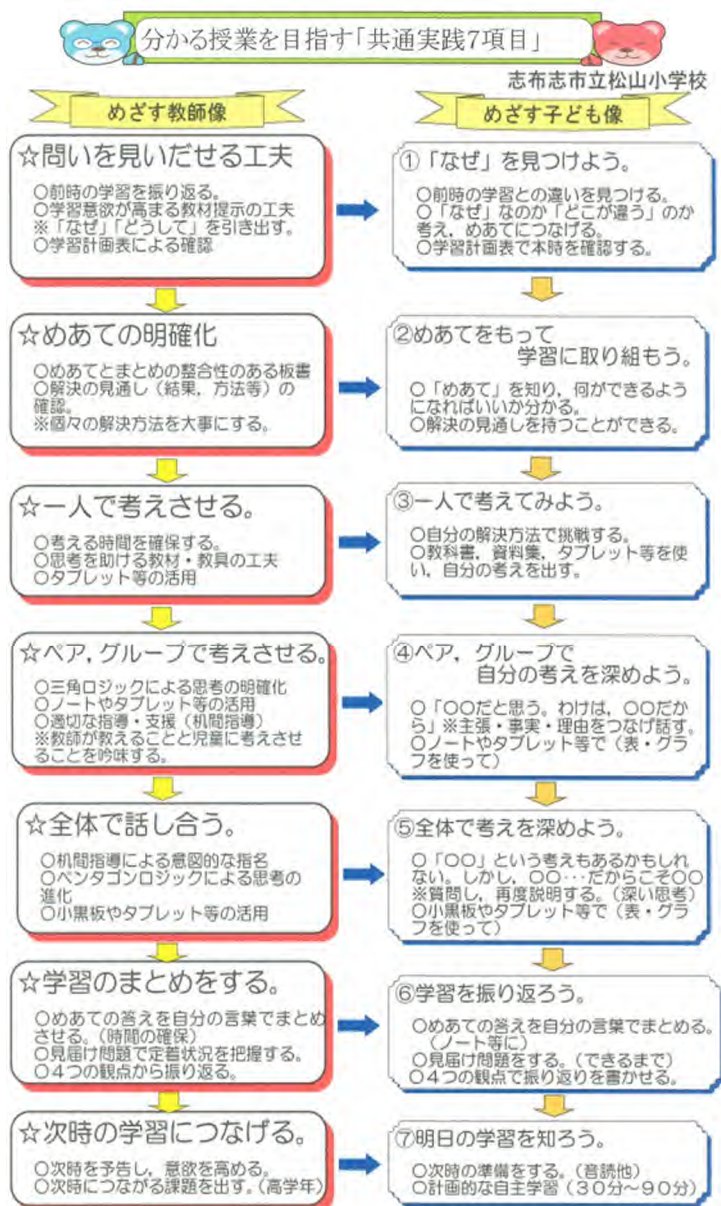


図2 松山小「共通実践7項目」

3 研究の仮説

仮説1【算数科の学習において】

算数科の学習において、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る指導計画や見通しをもたせる工夫、自分の成長につなげる振り返りを設定することによって、児童の主体的な学びを実現することができるのではないか。

仮説2【学習環境において】

学習環境において、学びの軌跡が視覚化された算数コーナーや多様な他者との協働的な学びにつながる掲示、ICTの活用によって、児童が自ら問題発見・解決し、学びをつなぐことができるのではないか。

4 研究の内容

(1) 仮説1の手立て

ア 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を往還するために、「共通実践7項目」を基にした1単位時間の指導計画を見直し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。

イ 学習に対する興味・関心や課題解決への意欲を持続できるように「単元のゴール」を作成する。

- ウ 単元を通して数学的な見方・考え方を位置付け、見通しをもって数学的活動ができるようにする。
- エ 振り返りの観点を設定し、前時とのつながりを意識した振り返りができるようにする。

(2) 仮説2の手立て

- ア 学びの軌跡が構造化された算数コーナーを設置し、学びを関連付けられるようにする。
- イ 論理的思考が促される掲示やロイロノートの整理を行い、協働的な学びの充実を図る。

5 研究の実際

(1) 仮説1の検証

ア 指導計画の見直し

単元のゴールに取り組ませる時間を確保するため、単元の学習過程において、導入場面を「見通す」、終末を「まとめる」と位置付けたり、単元のゴールを根本に据えて、「何を学ぶか」、「何ができるようになるか」を構成したりすることで、児童の主体的な学びにつながると考えた。

過程	主な学習内容(何を学ぶか)	評価計画(何ができるようになるか)
(1) 見通す	1 長方形や正方形, 基本図形の性質や, L字型の複合図形の面積を求め, 既習事項を確認するとともに「 単元を見通す学習課題(単元のゴール) 」を知る。	【態】L字型の図形の面積をいろいろな考え方で求めようとしている。 【態】 単元のゴール を知り, 学習意欲を高めている。
(2) 平行四辺形の面積	2 平行四辺形の面積を求めるために長方形に等積変形したり, 必要な長さを考えたりして, 求積公式をつくる。	【思判表】長方形に等積変形し, 必要な長さを考え, 公式をつくることができる。
	3 平行四辺形の高さの測り方に気付く。 4 高さが底辺の延長線上で交わる場合, 平行四辺形の面積の求め方を考える。	【知技】平行四辺形の求積公式を活用し, 面積を求めることができる。
(3) 三角形の面積	5 三角形の面積を求めるために長方形や平行四辺形に等積変形や倍積変形したり, 必要な長さを考えたりして, 求積公式をつくる。	【思判表】長方形や平行四辺形に等積・倍積変形し, 必要な長さを考え, 公式をつくることができる。
	6 高さが三角形の内部に取れない三角形の面積を, 公式を適用して求める。	【知技】三角形の求積公式を活用し, 面積を求めることができる。
	7 三角形の面積と底辺の長さから, 高さを求める。	
(4) いろいろな形の面積	8 台形の面積を求めるために既習の図形に等積変形したり, 必要な長さを考えたりして, 求積公式をつくる。	【思判表】長方形や平行四辺形, 三角形に等積・倍積変形し, 必要な長さに着目し, 公式を考慮することができる。
	9 ひし形の面積を求めるために既習の図形に等積変形したり, 必要な長さを考えたりして, 求積公式をつくる。	【知技】平行四辺形や三角形, 台形, ひし形の求積公式を活用し, 面積を求めることができる。
	10 一般の四角形や五角形の面積の求め方を考える。	
(5) まとめる	11 平行四辺形, 三角形, 台形, ひし形の面積を, 公式を使って求める。	
	12 「 単元を見通す学習課題(単元のゴール) 」に取り組む。	【態】 単元のゴール に協働して進んで取り組んでいる。

「小学校算数」学校図書(下)では、『**平行四辺形の面積**』『**三角形の面積**』がそれぞれ4時間ずつ位置付けられているが, その内1時間ずつ『**見通す**』、『**まとめる(単元のゴールに取り組む)**』として位置付けた。

単元を通して『**単元のゴール**』を意識させ, 見通しをもって学習できるようにした。

図3 5年「図形の面積」(全12時間)の単元指導・評価計画

イ 見通しをもたせ、課題解決への意欲を持続させる「単元のゴール」の作成方法

算数・数学科の目指す資質・能力「知識及び技能」, 「思考力, 判断力, 表現力等」, 「学びに向かう力, 人間性等」の3つの柱を基に, 「単元終末の問題の活用」, 「協働的な学びの実現」, 「数学的活動の楽しさへの気付き」の3観点で単元のゴールを作成した。(図4)

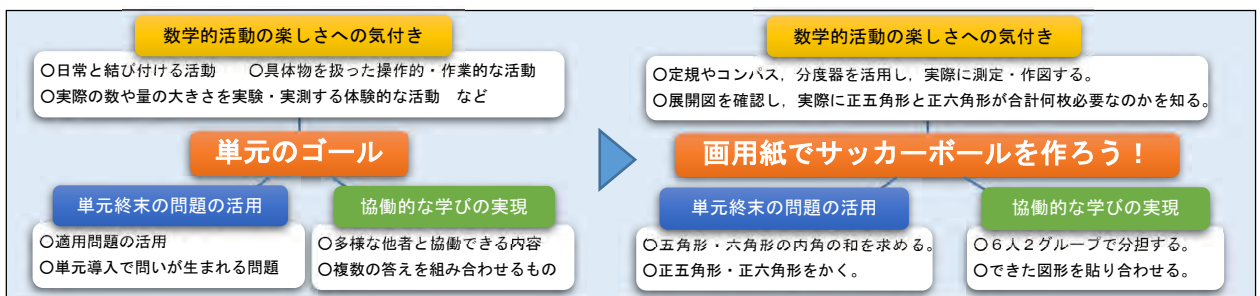


図4 単元のゴール作成のイメージ(左)と実際(右: 5年「図形の角」)の単元のゴール

ウ 「単元のゴール」 の実際

単元のゴールを毎時間確認したり，協働して取り組む時間を確保したりすることで，「問いを見いだす」点において意識の低い児童が意欲的に活動することができていた。また，児童自身で学習のつながりを見いだすことができ，課題解決への意欲も持続できた。（図5）

単元のゴール	協働して取り組む姿	教室掲示
<p>単元『図形の角』</p> <p>画用紙でサッカーボールを作ろう！</p> <p>サッカーボール 展開図</p> 		
<p>単元『倍数と約数』</p> <p>『TEAM13オリジナルアート』を作ろう！</p> <p>たて5cm，横6cmの長方形の紙を，右のように同じ向きにならべて二番目に小さな正方形を作ります。</p> 		
<p>単元『分数と小数・整数』</p> <p>教室にコスモスをさかせよう！</p> <p>むらさき，ピンク，白色のコスモスを作ります。コスモスは，同じ長さのリボン4本で作れます。むらさきのコスモスは，1mの長さのリボン5等分です。ピンクは2mの8等分です，白は3mの20等分です。それぞれ1本は何mですか。分数と小数で答えましょう。</p> 		
<p>単元『図形の面積』</p> <p>地図 上空写真</p>  <p>松山小学校のしき地の面積を求めよう。</p>		
<p>単元『割合(1)』</p> <p>一番シュートが成功しやすい場所を探そう！</p>  <p>「A」「B」「C」の場所からそれぞれ1人2回ずつ投げます。シュートが成功した割合をそれぞれ百分率で調べ，成功しやすい場所を探しましょう。</p>		

図5 単元のゴールについて

エ 単元を通した数学的な見方・考え方の位置付け

数学的な見方	事象を数量や図形及びそれらの関係についての概念等に着眼してその特徴や本質を捉えること
数学的な考え方	目的に応じて数，式，図，表，グラフ等を活用しつつ，根拠を基に筋道を立てて考え，問題解決の過程を振り返るなどして既習の知識及び技能等を関連付けながら，統合的・発展的に考えること
数学的活動	事象を数理的に捉えて，算数の問題を見だし，問題を自立的，協働的に解決する過程を遂行すること

上の表（引用：小学校学習指導要領解説 算数編）から，数学的に考える資質・能力を育むために，「どのように学ぶか（数学的な見方・考え方）」について単元を通して位置付けることで，児童が事象を数量や図形及びそれらの関係などに着眼して捉え，根拠を基に筋道を立てて考え，統合的・発展的に考察することができると思えた。

問題

右の台形の面積を求めましょう。

考え方

同じように考える
数や形をかえる
それぞれの考えをまとめる
「きまり」を見つける

観点

線を引く
平行四辺形
切る
いどうする
2倍する

見方

必要な長さ

写真1 台形の公式づくりの板書

第4学年「垂直・平行と四角形」
垂直・平行・対角線の意味、台形、平行四辺形、ひし形の定義や性質を理解し、正しく作図できる。

第4学年「面積」
面積の単位と測定の意味を理解し、長方形や正方形の面積を公式を使って求めることができる。

数学的な考え方の観点(どのように学ぶか)

- 同じように考える
- 数や形を変える
- それぞれの考えをまとめる
- きまりを見つける

数学的な見方(何を見るか)

- 図形を構成する要素など

第5学年「図形の面積」
平行四辺形、三角形の面積の求め方や求積公式の意味を理解し、求積公式を活用し、基本的な図形の面積を求めることができる。また、倍積変形・等積変形などの操作を通し、図形の面積の求め方を考えることができる。

写真2 (左) デジタル教材活用場面

写真3 (右) 考えをノートにまとめる場面

写真1のように、単元を通して数学的な見方・考え方の観点を提示し、見通しをもてるようにした。それぞれどのような見方・考え方ができるかを児童とともに確認し、数学的活動を行わせる。本研究では、児童の主体的な数学的活動のため、デジタル教材（写真2※）を活用し、考えをノートにまとめていく（写真3）。

※出典：e-net(熊本市地域教育情報ネットワーク)
<http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/>

統合的に考察する	異なる複数の事柄をある観点から捉え、それらに共通点を見いだして一つのものとして捉え直すこと
発展的に考察する	物事を固定的なもの、確定的なものと考えず、絶えず考察の範囲を広げていくことで新しい知識や理解を得ようとする

上の表（引用：小学校学習指導要領解説 算数編）から、本研究では、統合的・発展的に考察する観点として、『は・か・せ・どん』を活用し、多様な考えを生かして、簡潔・明瞭・的確な表現に高めていけるようにした（図6）。5年「図形の面積」の公式をつくる授業では、多様な考えを見方・考え方を基に分類して共通点を見だし、比較・検討させ、一般化を図った。

統合的

多様な考えを見方・考え方「数や形をかえる」を基に分類し、共通点を見いだす。

発展的

『はかせどん』を活用して比較・検討させることで、簡潔・明瞭・的確な表現に高めさせ、一般化を図る。

はやく
かんたんに
せいかくに
えなときも

写真4 三角形の公式づくりの板書

図6 5年「図形の面積」における統合的・発展的な考察について

写真4 三角形の公式づくりの板書

写真4のように、個別最適な学びで生まれた自分の考えを、異なる考えと比較・検討したり、統合したりすることで、より多くの考えを知り、自分の考えを深めることができたことを考察する。

オ 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた学習過程の充実

『個別最適な学び』は、「指導の個別化」と、「学習の個性化」に整理されている。授業の中で「指導の個別化」や「学習の個性化」による成果を『協働的な学び』に生かし、更にその成果を『個別最適な学び』に還元するなど、『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実し、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要である。

以上のことから、「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するといった、本校の「共通実践7項目」を基にした学習を往還する1単位時間の指導計画を作成し、学習過程の充実を図る（図7）。



図7 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を往還する一単位時間の学習過程

カ 振り返りの観点を設定し、前時とのつながりを意識した振り返り

本研究では、振り返りの観点を示し、授業終末に振り返りをさせる。その中でも「①授業で使った【考え方】を振り返る」「②自分の成長につなげる」ことを振り返らせ、身に付けた知識及び技能を日常生活や学習で活用できるようにする（図8）。

また、振り返りの観点を設定し、学習を進める中で、前時の振り返りの確認をして学びをつなぐ必要があると考えた。

そこで、ロイロノート(株式会社LoiLo)の1枚のカードに単元の振り返りを蓄積し、前時の振り返りの確認をしたり、次時の学習につないだりできるようにした。

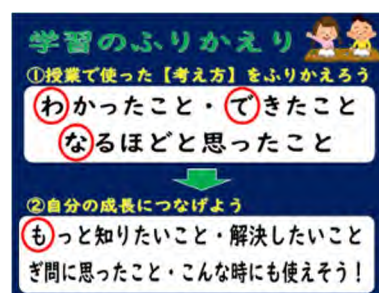


図8 振り返りの観点

(2) 仮説2の検証

ア 学びの軌跡が構造化された算数コーナー

既習内容や数学的な見方・考え方の観点、単元のゴールを段階的に整理した算数コーナーを教室壁面に設置した(写真5)。それぞれを関連付けられるようにすることで、単元のゴールの解決に向けて、児童自ら「何を見るか」、「どのように考えるか」と考え、学びをつなぐことができると考えた。

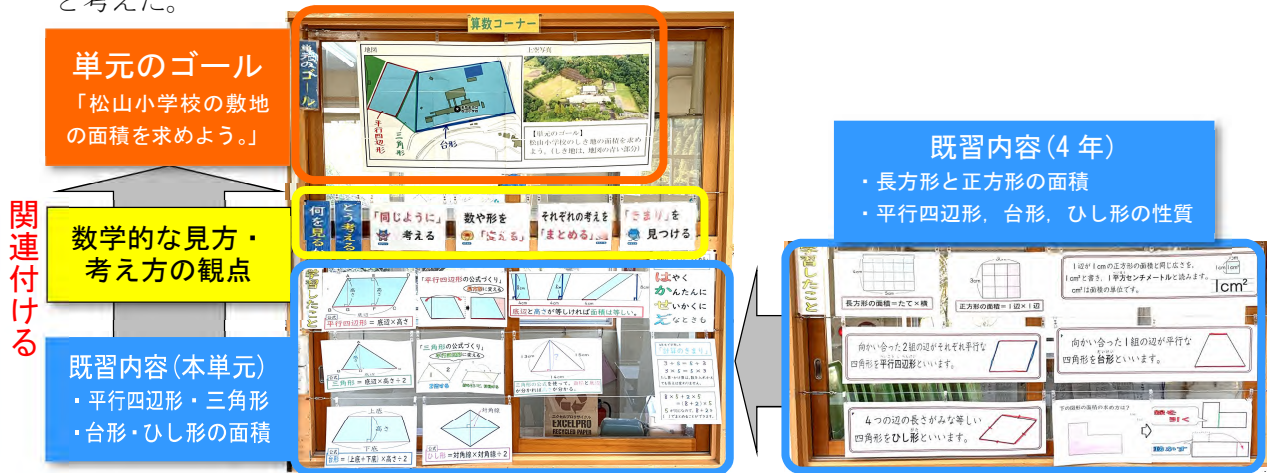


写真5 学びの軌跡が構造化された算数コーナー (5年「図形の面積」)

イ 多様な他者との協働的な学びにつながる掲示と ICT 活用

学習過程の協働的な学びの時間に、児童同士の対話を促すことができるよう、教室掲示を工夫した。また、様々な場面での話し方の例を掲示したり、ヒントカードとして活用させたりすることで、児童自ら課題を見だし、解決に向けて話をつなぐことができると考えた(図9)。

説明する

主張 「私は〇〇だと思います」
理由 「なぜなら～だからです」「たとえば～だったら」「ここに～書いてあるからです」
主張 「だから〇〇だと思います」

質問する

「そういう考えもあるね!」
「本当に?」「もう一回教えて。」「つまり、～ってこと?」「たしかにそうだけど、少しちがうと思う!」

こんなとき	話し方の例
質問があるとき	「…のどこを、もう少し詳しく教えて。」 「…って、どういうことですか?」
質問に答えるとき	「…です。分かりましたか?」 「例えば…ということですか?」 「…です。理由は…だからです。」
賛成するとき	「…という意見に賛成です。」 「わたしも同じように…と思うからです。」
反対するとき	「〇〇さんの考えもいいと思いますが、わたしは…と思います。」
反対意見にこたえるとき	「たしかに そうですね。」 「ただ…だと思います。」
友達を助けたいとき	「〇〇さんの言いたいことは、…だと思います。」 「〇〇さんの考えに付け加えると、…です。」
共通点を出すとき	「…が同じだね。」
ちがいを出すとき	「…がちがうね。」
意見をまとめるとき	「2つの意見を合わせて、…したらどう?」 「意見をまとめると、…になると思います。」 「つまり…だね。」 「全員同じなので、…っていいと思います。」
進まないとき	「時間があと〇分だから、先に進まない?」 「これでは決まらないから、…をしよう。」
順番を決めるとき	「…を先に決めない?」

図9 協働的な学びを促す掲示

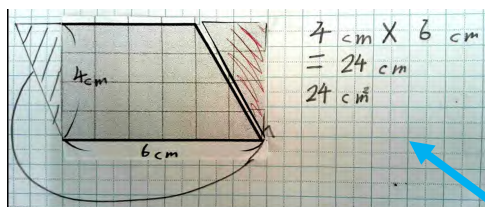


図10 撮影した自分の考え

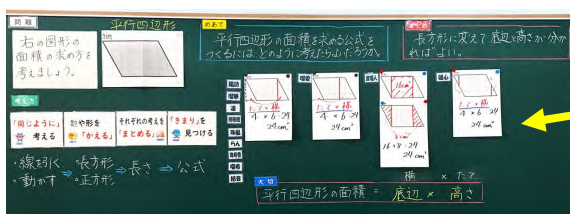


図11 撮影した前時までの板書



図12 共有ノート(ロイロノート)

6 研究のまとめ

(1) 本校の「共通実践7項目」を基にした実態調査から

右の表は、本校の「共通実践7項目」を基にした実態調査の、実践前（5月）と実践後（12月）を比較したものである。特に意識の低かった3項目のみ取り上げている。

どの質問項目においても、「あまり」「全く」と回答する児童が0人となり、意識の向上が見られた。質問1と質問7は、単元のゴールの設定や前時とのつながりを意識した振り返り、学びの軌跡が構造化された算数コーナーの整備によって、児童が学びをつなぎ、主体的な学びが実現できたことから意識の向上が見られたのではないかと考える。また、質問5は、単元を通じた数学的な見方・考え方や学習過程の充実、協働的な学びにつながる手立てにより、自分の考えをより深めようとする意欲につながったのではないかと考える。

質問1		学習のはじめに「なぜだろう」と考えている。			
		とても	まあまあ	あまり	全く
実践前		6人	4人	1人	1人
実践後		10人	2人	0人	0人

質問5		友達の考えに質問したり、自分の考えをさらによくしようとしたりしている。			
		とても	まあまあ	あまり	全く
実践前		6人	4人	1人	1人
実践後		10人	2人	0人	0人

質問7		学習したことを次の学習に生かそうとしている。			
		とても	まあまあ	あまり	全く
実践前		8人	1人	2人	1人
実践後		10人	2人	0人	0人

表 実践の前後比較

(2) ロイロノートの振り返りから

図13は、実践前の実態調査において「あまり」と回答した児童の振り返りである。この振り返りの内容から、「①授業で使った【考え方】を振り返る」、「②自分の成長につなげる」ことができていることが分かる。観点を提示したことや前時までの振り返りを確認できるように工夫したことにより、自ら課題を見だし、解決に向けて学びをつなぐことができたのではないかと考察する。

- ・4年生の復習をして畑の面積を求める問題ができなくなってとても忘れていたと思った。次は面積を求めるからとても難しそうだなと思った。そのために復習をしていきたい。簡単に計算できるようになりたい。松山小学校の面積を知りたい。どうやって面積を調べられるか知りたい。
- ・長方形に変えて底辺と高さが分かたらよいことが分かった。あと、平行四辺形の面積は底辺×高さで計算すればよいことを初めて知った。
- ・底辺と高さが等しければ面積は等しいことが分かった。
- ・長方形だけでなく台形の形やひし形の形の問題も解いてみたい。〇〇さんの考えは合っていないけどそんなやり方があることを初めて知った。
- ・三角形の公式を簡単にするには底辺×高さ÷2をすればよいことが初めて分かった。次はひし形の公式が簡単にできる公式のやり方をやりたいし台形の公式も簡単にできる計算の仕方を知りたい。三角形のできかけでも底辺×高さで計算しても三角形の時の考え方と同じことを初めて知った。このことは初めて知ったから自学にも生かして書いていきたい。
- ・14×□÷2=面積の84で14÷2×□=84、7×□=84、84÷7=12で正確に計算することを初めて知った。これで計算を簡単に解いていきたい。そのために簡単にできるようにしたい。
- ・今日は台形の公式を簡単にできるやり方を勉強したが簡単に覚えられることが初めて分かった。台形公式=(上底+下底)×高さ÷2をすればいいことを初めて知った。これで計算が早くとけるような気がした。
- ・みんなが図ってきた長さを合わせてみると意外と答えが近くてびっくりした。長さを測ったら松山小学校の面積が求められた。

図13 「あまり」と回答した児童の振り返り

また、振り返りをカードに打ち込むにあたって、時間制限は設けているが、文字数の制限はない。さらに、他人の振り返りを自由に見ることもできるため、時間内に多くの振り返りを書こうと競争する姿が見られたことは想定外のことであった。

(3) 「単元のゴール」に取り組む姿から

実践前の実態調査において「全く」と回答した児童（写真6：右端の児童）が、「割合(1)」の単元のゴールに取り組む様子である。この単元では、割合の意味と表し方を理解し、割合を分数、小数、百分率、歩合などで求めることを



写真6 単元のゴールに取り組む児童

学習する。そして、身に付けた知識及び技能を「単元のゴール～A, B, Cのどの地点からシュートを打てば、最も成功率が高くなるか～（p. 4単元のゴール参照）」で実際に活用できるか観察した。写真6のように、意識の低かった児童が協働的に周りの児童と活動し、問題を解決しようとする姿が見られた。自ら課題を見いだすことは難しかったが、バスケットボールという算数の学習以外の場面で、多様な他者と共同して課題を見だし、解決に向けて学びをつなぐことができていた。

(4) 研究の成果

- 単元のゴールにより、見通しをもたせることができ、児童の意欲の向上につながった。
- 自力解決の場面と練習を解く場面で、「フリータイム」を導入することにより、子供たちが主体的に学ぶようになった。
- 振り返りを一枚のカードに書くことや、本時の振り返りに加えて自分の成長につなげる振り返りをさせることで、前時と本時のつながりを感じやすくなり、次時への意欲付けにもなった。
- 「台形の公式づくり」の授業では、フリータイムに複数で解決する姿はなく、全員が自力解決していた。見通しをもち、何度も公式づくりを繰り返してきた成果であると考えている。

(5) 今後の課題

- 単元のゴールの構想に時間がかかった。カリキュラム・マネジメントの観点からも作成できるか検討する必要があると感じた。
- フリータイムによって自信をもって発表できるようになったが、他人と違う考えを書いていると訂正する姿も見られた。教師の声掛けや支援が必要であると感じた。
- 児童が発展的に考察し、基礎学力の定着を図るために、見届け・練習問題の精選をしたり、その時間を十分確保したりする必要があると感じた。
- 「学びをつなぐ児童の育成」のために、系統的に学習を進める必要があり、働かせる見方・考え方や学習過程など、全学年で共通実践することで更なる成果が見られると考える。